

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 44 号

平成17年12月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

スポルジョン「朝ごとに」より（5）

8月31日

わが腕によりたのむ。（イザヤ51.5）

激しい試練に際して、クリスチャンは地上に何一つ頼るべきものをもたないので、ただ神にのみその身をゆだねなければならないことになる。彼の船が真横に傾いて危機にひんし、人の助けが全く及ばなくなったとき、彼は単純かつ全面的に、自己を神の摂理と愛護にゆだねなければならぬ。人をこのような岩に打ち当てて難破させる嵐は喜ばしいものである。...

あなたにとり、神はこの世界を千万も集めたほどの価値があることを世に向かって示せ。主なる神があなたの助け手であられるとき、あなたは貧困の中にあっても富める者であることを世の富者に示せ。あなたの下に永遠の腕がある時、自らが弱い時にこそ強いことを世の強者に向かって示せ。今は信仰のめざましい働きと、勇敢な行為の時代である。強くかつ雄々しかれ。そうすればあなたの主なる神は、天地を創造されたように確実に、あなたの弱きうちに御自身の栄光を表わし、あなたの患難のうちにご自身の力を示させる。...

この月の最後の日に於いて、願わくば聖霊が、あなたにイエスにある安息を与えたまわんことを。

9月5日

災いなるかな、私はメセクにやどり、ケダルの天幕の中に住んでいる。(詩篇 120・5)

敵はあなたの行動の中に矛盾を見いださんとしてたえず見張る。それゆえ清潔であれ。あなたは衆人環視の中にあり、他の人以上のことがあなたに期待されていることを記憶せよ。非難を受ける原因を作らぬように努めよ。善良があなたの唯一の欠点であれ。...

医師が病人の多いところに行かないでどこへ行こう。激戦のただ中に入らずして兵士が武勲をたて得ようか。

あなたが罪と取り組む戦いに疲れたとき、すべての聖徒が同様の試練に耐えたことを思え。彼らは羽根ぶとんにくるまれて天国に運ばれたのではない。それゆえあなたも彼らよりたやすく天国へ行けると思うな。彼らは激戦のただ中で生命を賭して戦った。同様にあなたも、イエス・キリストのよき兵卒として苦しみに耐えることをしなければ、栄冠を得ることはできぬ。このゆえに、「信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。」

9月11日

彼らと分離せよ。(第2コリント 6・17)

行動に於いて、この世と分離されていなければならない。...

あなたの召しと与えられた地位にふさわしく歩め。クリスチャンよ、あなたが王の王の子たることを忘れるな。やがて天のたてごとをかき鳴らす指を、この世のもので汚すな。すぐに美しい王を見る眼を肉欲の窓とするな。またすぐに天国の黄金の道を歩むあなたの足を、ぬかるみの中に踏み入れるな。ほどなく天国の思いに満たされ、歡喜にあふれるあなたの心を、高慢と痛恨をもって満たすな。

9月14日

イエスが船に乗っておられるまま、乗り出した。

(マルコ 4・36)

その夜、イエスは海軍提督として、親しく一隊の船団を護衛された。船がいかにか小さくあろうと、イエスと共に航海するのはまことによい。...

嵐が暗いガリラヤの湖上を吹いたとき、人々は顔色を失い、今にも船が難破するのではないかと恐れた。かくて一切の人間的な頼みの綱が切れた時、眠っておられた救い主が立ち上がり、一言をもって大嵐を静められた。そのため主が乗っておられる舟も、その他の舟も共に安きを得た。イエスは海の星であられる。海上には悲哀もあるが、イエスがいませば、喜びもまたある。私達の心がイエスをいかりとし、かじとし、灯台とし、救助艇とし、港とすることのでき得るように。

彼の教会は提督の座乗される旗艦である。私達はこの教会の集いに出席し、この旗艦の将校たる教役者を励まそうではないか。常に私達はイエスの航跡に従い、信号に注意し、彼の海図に従ってかじを取り、呼べば直ちに答えられる所にいたもう彼を覚えて、決して恐れぬようにしたい。護送船団のうち一艘足りとも、難破するものはない。大提督がすべての舟の一つ一つのかじを取り、安全に目指す港へ伴いたもうのである。

信仰によって私達はいかりづなをとりて航海に出る。しかしてイエスと共に苦難の海に乗り出す。風波は私達を容赦しないだろう。しかし、それらはすべてイエスに従う。さらば、外にはいかなる突風が起ころうと、信仰により内には幸いなる平安がある。ゆえに私達は波にあって喜ぼうではないか。彼の舟はすでに港に入った。かくて私達もまもなく港に入るであろう。

9月19日

自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さいたのである。（ガラテヤ5・1）

あなたは約束の食卓に招かれている客である。聖書は無限の恵みに満ち、尽きることを知らぬ宝庫である。またそれは天の銀行である。何の妨害もなくあなたの欲するままに引き出してよい。...

神のみ言葉の中には、撤回されるような約束は一つだにない。苦難の底においても、この自由によって自ら慰めよ。苦悩の大波の中にも、これによって自らを励ませよ。悲哀があなたを取り囲むとき、これをあなたの慰謝とせよ。これはあなたの父の贈り物である。あなたはいつでも、それを自由に受けることができる。...

私達の願望、困難、欠乏がいかなるものであろうと、自由に一切を父なる神の御前に広げ得る。私達がいかにどの罪を犯して来たかは問題ではない。私達は罪の許しを求め、かつそれを期待してよい。私達がいかに貧しかろうと、問題ではない。彼こそすべての必要を備えたもうとの御約束に従って求めればよい。いつにても、私達は、彼の御座に近づき得る。真夜中の暗黒にも、また真昼の炎暑にも近づくことができる。おお信者よ、あなたの権利を用いて、あなたの特権に生きよ。キリストの中に貯えられたすべてのもの 知恵、正義、聖潔、あがない をあなたは自由に得ることが出来る。...

9月20日

「主のためのつるぎ、ギデオンのためのつるぎ」と叫んだ。

(士師記7・20)

ギデオンは部下に二つのことを命じた。すなわちたいまつをつぼの中に隠し、合図と共につぼを打ち砕いて光を輝かすこと、そしてラッパを吹き「主のためのつるぎ、ギデオンのためのつるぎ」と叫ぶことであった。

これはすべてのクリスチャンのなすべきことである。まず、あなたは輝かねばならない。あなたの光を隠しているつぼを打ち砕き、あなたの燭台をおおえる枡を投げ捨てて、照り輝け。あなたの光を人々の前に輝かせ。あなたの行いを見る人々に、あなたがイエスと共にいたことを知らしめよ。次に音がなければならぬ。ラッパを吹かなければならぬ。すなわち十字架につけられしキリストを宣べ伝えることによって、罪人を救う積極的な努力がなされなければならない。福音をたずさえて彼らのもとに行け。それを彼らの戸口にまで運び行け。彼らの歩む道にそれを置け。彼らが福音から逃げる事のないように、彼らの耳もとでラッパを吹き鳴らせ。...

私たちは自らの力では何もなし得ないが、私たちの神の助けによってすべてのことをなし得る。ゆえに、主の御名により進んで出て行き、聖潔の生活のたいまつをふりかざしつつ、熱心な宣教と証しのラッパを響かせて主に仕える決心をしようではないか。...

9月28日

主は天から見おろされ、すべての人の子らを見...

(詩篇33・13)

あなたが涙を流すとき、神がそれを見ておられぬと思うのか。否、「父がその子供をあわれむように、主は、おのれを恐れる者をあわれまれる。」エホバの心を動かし、ささやきはエホバの耳を傾けさせ、あなたの祈りは彼の御手をとどめ、あなたの信仰は、彼の御腕を動かす事ができる。

神が高き御座にいまして、あなたのことを顧みたまわぬなどと思っ
てはならぬ。いかにあなたが貧しくとも、彼はあなたを心にかけて
たもうことをおぼえよ。なぜなら、主の目は全地をあまねくみそな
わし、ご自身に向かって心を全うするものに御力を表わしたもうか
らである。

9月30日

全地よ、神にむかって喜び呼ばわれ。そのみ名の栄光を歌え。栄えあるさんびをささげよ。(詩篇 66・1, 2)

私達が神を讃美するかしないかは、私たちの勝手なのではない。神は讃美を受くべき方であられ、すべてのクリスチャンは、神の恵みを受けたものとして、日々神を讃美すべきである。...

しかし、神を讃美する事はクリスチャンの義務である。これは単なる楽しき行事であるのみならず、クリスチャンの生涯の絶対的義務である。たえず嘆き悲しむ者よ、この点に関して自らを罪なしと思うな。また讃美の歌なくしてあなたの神に対する義務を果し得るとするな。あなたは生ける限り、主の御名をほめたたえるため、愛のひもをもってつながれている。そして主に対する讃美が常にあなたの口になければならない。...

あなたの豎琴を柳にかけたままにせずに、それをおろし感謝の心をこめて高らかにかき鳴らせ。起ちて神への讃美を歌え。夜明けごとに感謝の叫びをあげ、夕日の沈むごとにあなたの讃美の歌をうたえ。

10月2日

あなたがたのために天にたくわえられている望

(コロサイ 1・5)

私たちがキリストにあって持つ将来への希望は、地上における私たちの喜びの主因となり、また支柱となる。しばしば天国を思うのは、私達の心に力を与える。なぜなら私達の望み得るすべては、天国において約束されているからである。この地上で私たちはうみ疲れている。しかし、かしこの天国は安息の場所であり、働く者の汗が額に流れることなく、決して疲労することもない。

...常に私達は戦場にあり、内には誘惑、外には敵がいる。そして私達にはほとんど平安がない。が、天国にて勝利を楽しむ。そのとき勝利の旗は高くひるがえり、剣はさやに収められ、私達は将帥が「良い忠実な僕よ、よくやった」と言われるのを聞くであろう。...

聖霊の働きによって、天国の希望は徳操をつくる最も有力な要素となる。それは喜びに満ちた努力の泉であり、楽しい聖潔のすみ石である。この希望を持つ人は働きも活発となる。それは主を喜ぶことが彼の力となっているからである。彼は熱烈に誘惑と戦う。そして来世の希望が敵の放つ火矢を撃墜するのである。彼は現在の報いを目あてにせず働く。なぜなら来るべき世に報いを期待しているがために。

10月4日

夕暮れになっても、光があるからである。(ゼカリヤ 14・7)

私達はしばしば不吉な予感をもって老境を見、夕暮れになっても光があることを忘れている。多くの聖徒にとって、老年は生涯の黄金時代なのである。舟乗りが不朽の国の岸辺に近づくと共に、こちよい風がそのほおをなぜ、波は静まり、深い荘厳な静けさがあたりをおおう。老年の祭壇からは青年の頃の燃え上がる火のひらめきは昇らない。しかし、さらに真正な、さらに熱心な焰が残っている。

巡礼者たちはベウラの地に着いた。その幸福の国で過ごす日々は、この地上における天国のようだ。天使たちがおとずれ、天上の風が吹き、樂園の花はその中に成長し、空気は神々しい音楽で満たされている。...夕日は天空にあるときの太陽よりも大きく見え、栄光の輝きは夕日をかこむ雲のすべてを染める。

苦痛は人生のたそがれの甘美な静寂を乱さない。なぜなら、力は弱きところ完全に表われ、すべての苦痛に忍耐をもって耐えるからである。尊い経験の成果が人生の夕暮に収穫せられ、魂は安息に入る備えをなす。...

光は来る。不滅なる光よ！ 御父の顔の光よ！ あなたの足をベッドの中でひきしめよ。あなたを待つ天使の群を見よ。天使らはあなたを運び去る。さようなら、愛するものよ、あなたは行く。あなたは手を振る。ああ、いよいよ光は来た。真珠の門は開かれ、黄金の大路は碧玉の光で輝いている。

私達は目をおおう。しかしながら、あなたは私たちの見ることのできないものを見る。兄弟よ、あなたは私たちのいまだ見ざる夕べの光を得ている。